

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 218人 国語B 218人

② 数学A 218人 数学B 218人

5 留意事項

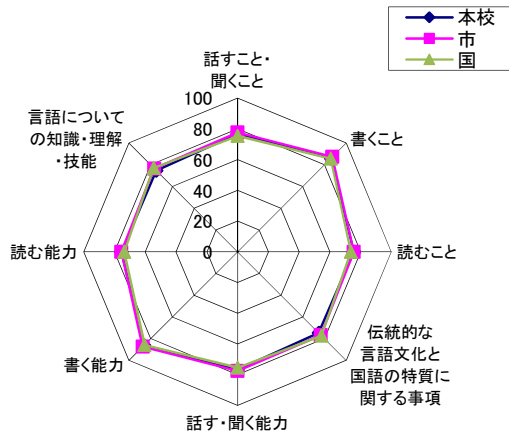
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

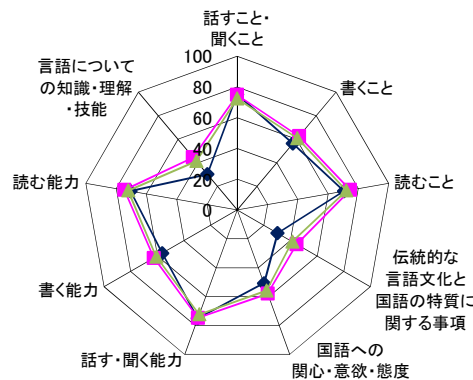
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.7	77.6	75.4
	書くこと	86.0	87.3	85.7
	読むこと	75.6	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.7	77.6	75.4
	書く能力	86.0	87.3	85.7
	読む能力	75.6	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	74.7	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.1	74.8	72.4
	書くこと	56.4	62.6	60.8
	読むこと	70.5	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	30.3	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	50.8	58.0	55.9
	話す・聞く能力	75.1	74.8	72.4
	書く能力	56.4	62.6	60.8
	読む能力	70.5	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	30.3	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

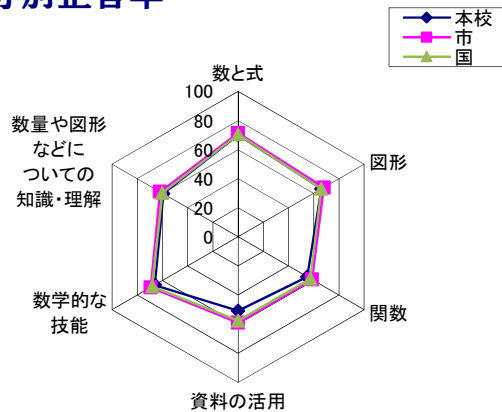
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○国語Aにおける領域の平均正答率は、市の平均を0.9ポイント下回っているが、全国平均を1.3ポイント上回っている。「話すための材料を人との交流を通して集める」設問では、国の平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>●「事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す」設問では、国の平均を6.2ポイント下回った。</p> <p>○国語Bにおける領域の平均正答率は、全国の平均を2.7ポイント上回った。「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」設問では、3.6ポイント国の平均を上回った。</p>	<p>・質問紙調査の結果から、「生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と感じる生徒は3割に届かず、本校の課題と言える。今後は、スピーチ・ポスターセッション・パネルディスカッションなど他の意見を聞く活動を随時取り入れていきたい。その活動を通して、自分の意見との共通点・相違点を発見させ、相手の意見をしっかりと理解させることで自分の考えを深め、広げられるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>○国語Aにおける領域の平均正答率は、ほぼ市・全国と同じレベルである。特に「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」設問では、国の平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>●国語Aで、「事実と考えとの関連に注意し、構成を工夫して話す」設問では、国の平均を6.2ポイント下回った。</p> <p>●国語Bにおける領域の平均正答率は、市の平均を7.2ポイント、全国の平均を4.4ポイント下回った。</p>	<p>・質問紙調査の結果から、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」と感じている生徒の割合が比較的高いことがうかがえる。普段の授業で短い文章を書いたり、「少年の主張作文」を書く際に文章の構成や表現などについて細かく指導するなど、生徒の書くことへの苦手意識を取り除いていけるような指導を心掛けていきたい。</p>
読むこと	<p>○国語Aにおける領域の平均正答率は、ほぼ市・全国と同じレベルであった。特に「文章の要旨を捉える」設問では、国の平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●国語Aで、「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」設問では、国の平均を4.4ポイント下回った。</p> <p>●国語Bにおける領域の平均正答率は、市の平均を4.1ポイント、全国の平均を1.6ポイント下回った。特に「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」設問では、国の平均を18.9ポイント下回っていた。</p>	<p>・注釈や説明を見ながら、自分なりに内容の読み取りができるような時間を増やし、分からない部分があって前後の文脈から判断できるような力を培いたい。また、朝の読書の時間を継続することで、読書量を増やし、読む楽しさ、大切さを体験させていきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●国語Aにおける領域の平均正答率は、市の平均を1.9ポイント、全国の平均を2.5ポイント下回った。</p> <p>●国語Bにおける領域の平均正答率は、市の平均を14.4ポイント、全国の平均を11.1ポイント下回った。</p>	<p>・すべての学びの基礎基本として、語彙力の育成は重要である。特に、漢字の読み書きについては、単元ごとにミニテストやまとめのテストを行うなどして、学力の定着を図っていく。また、文法の学習は、繰り返しドリル学習することで知識を定着させ、生活の中で活用できる能力の育成を図りたい。そして、普段から辞書を活用することで語彙力をつけていけるよう指導していく。</p>

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

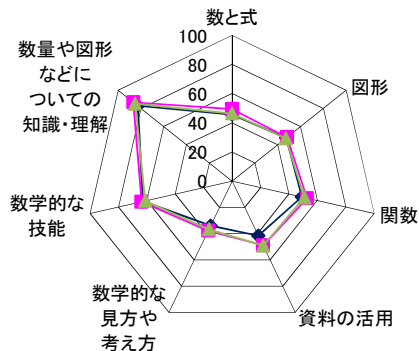
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.1	71.4	70.4
	図形	66.1	67.9	66.0
	関数	54.8	58.6	57.4
	資料の活用	50.7	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	66.1	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	59.5	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	45.7	49.4	46.3
	図形	47.5	48.3	47.1
	関数	49.1	52.7	50.8
	資料の活用	41.6	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	34.0	37.8	36.8
	数学的な技能	62.8	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	82.8	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>●平均正答率は、市の平均を数学Aでは1.3ポイント、数学Bでは3.7ポイント下回っている。</p> <p>○昨年に比べると、市との差が数学Aでは1.5ポイント、数学Bでは4.3ポイント縮まった。</p>	<p>・数と式では、計算問題でのケアレスミスや文章から式を立てることに苦手意識が見受けられる。計算では正確な計算ができるよう習熟を図っていきたい。立式では、文章から必要な情報を読み取り、文字や数値の意味を理解しながら立式していくなどの問題演習を重ねていく必要がある。</p>
図形	<p>●平均正答率は、市の平均を数学Aでは1.8ポイント、数学Bでは0.8ポイント下回っている。</p> <p>○昨年に比べると、市との差が数学Aでは2.1ポイント、数学Bで7.2ポイント縮まった。</p>	<p>・図形では、証明に用いる用語や定義、定理などの性質を曖昧に覚えていたり、空間図形のイメージができていないなどが改善点としてあげられる。証明では、用語や性質を正確に理解させ、図に表したり、説明したりする活動を取り入れ習熟を図っていく。また、空間図形では、具体物やPCを利用して空間認識能力の弱さを補っていくようにする。</p>
関数	<p>●平均正答率は、市の平均を数学Aでは3.8ポイント、数学Bでは3.6ポイント下回っている。</p> <p>○昨年に比べると、市との差が数学Aでは6.3ポイント、数学Bで2.7ポイント縮まった。</p>	<p>・関数領域は、苦手意識を持っている生徒が多く、問題が理解できていない状況といえる。関数の理解を深めるために、一つの場面から様々な数量を取り出す活動などを行い、性質を発見していくような指導を引き続き行っていく。また、他領域にまたがる問題も多くあるため、今後も問題演習をしていく必要がある。</p>
資料の活用	<p>●平均正答率は、市の平均を数学Aでは8.2ポイント、数学Bでは8.4ポイント下回っている。</p> <p>●昨年に比べると、市との差が数学Aでは0.6ポイント広がった。</p> <p>○昨年に比べると、市との差が数学Bでは2.9ポイント縮まった。</p>	<p>・資料の活用では、代表値(平均値・中央値・最頻値)の意味を理解できていない生徒が多く見受けられる。その必要性と意味を理解させ、代表値が求められるよう引き続き指導していく。</p> <p>・確率では、樹形図や表などを用いて、起こり得る場合の数を正確に求められるよう引き続き指導していく。</p>

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という設問で、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、昨年度と同じ設問が全国平均を3.9ポイント下回っていたのに対して、本年度は全国平均より0.7ポイント上回った。しかし、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」との設問では、全国平均を4.2ポイント下回った。また、「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」との設問で、「当てはまる」と答えた生徒は25.7%にとどまり全国平均を13.2ポイント下回った。引き続き自分の意見をまとめて発表するスキルを学ばせるとともに、学びあいの場を多く体験させ、話し合い活動を様々な場面で意図的に活用していきたい。

○「家の人と将来のことについて話すことがありますか」との設問で「当てはまる」と答えた生徒は22.0%で、全国平均を5ポイント上回っている。生徒には将来を見据え、目標をもって生活するよう今後も指導していきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との設問で「当てはまる」と答えた生徒は74.3%で全国平均を8.2ポイント上回った。また、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」との設問では、全国平均を4.2ポイント上回った。今後の行われるオリンピックなどの国際交流をふまえ、国際理解教育をさらに充実させていきたい。

●「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」との設問で、「当てはまる」と答えた生徒は38.5%で、全国平均を8.1ポイント上回った。話し合い活動などとともに、各教科で書く活動を積極的に取り入れていきたい。

●「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」との設問では、「きちんと守っている」と答えた生徒の割合は17.9%で、全国平均を2ポイント下回った。また、「普段1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」との設問では、「4時間以上」と答えた生徒の割合が12.8%で全国平均より3.3ポイント高かった。携帯電話やスマートフォンの使い方については、いじめや、事件事故の原因になることも考えられるので、引き続き宇都宮市でのきまりもよく伝えていくとともに、生徒へ使用法の指導、保護者の協力を仰いで使用方法を考える啓発活動などをしていきたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて・ふりかえり活動」の工夫 ・「話し合い活動」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「ふりかえり」カードを全教室に配置し、授業で活用する。 ・各教科で、「話し合い」活動を取り入れた研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1・2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。」、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」という質問に肯定的に回答した生徒が、どちらも全国の平均をやや下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「書く活動」の工夫・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の中に「書く活動」を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特性に応じて、「授業のまとめ」や授業についての各自の様子をふりかえる活動において、積極的に「書く活動」を取り入れられるよう、校内研修等で共通理解・研修を深め、実践していく。